## 6　まちの目標と生活像

まちづくりの理念である「公共交通を軸とした都市の再構築による拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を実現することによる都市活動や市民のライフスタイルを視覚的に分かりやすく提示することで、まちづくりに関わる市民や事業者などが将来都市像をイメージしながら取り組めるよう、まちの目標と生活像（全体・エリア別）を示します。

### (1)まちの目標

#### 目標１　車を使わなくても安心で快適な暮らしを実感できるまち

車を自由に使えない人はもとより、日常的に車を利用する人にとっても、徒歩や公共交通を中心とした移動手段を選ぶことができ、商業・業務・医療などの都市機能を享受できる、安心で快適な暮らしを実感できるまちを目指します。

#### 目標２　市民のライフステージなどに応じた多様な住まい方が選択できるまち

市民のライフスタイルが多様化する中、既成市街地を中心に歩いて暮らせるまちや、歴史・文化が息づくまち、田園風景が広がる自然豊かなまちなど、ライフステージに応じて多様な住まいや生活環境を選択できるまちを目指します。

#### 目標３　地域の個性が発揮された拠点集中型のまち

都市機能や交通環境、歴史・文化などの地域資源を活かし、本市の顔である都心地区をはじめ、各地域で個性が発揮された地域生活拠点を形成します。また、それらを公共交通でつなぐ拠点集中型のまちを目指します。

#### 目標４　持続可能で災害に強い、安全・安心なまち

コンパクトなまちづくりを意識した土地利用の推進や無秩序な市街地拡大の抑制を図るため、市全域を見据えて、社会インフラの維持管理、空き家・空き地の管理、頻発・激甚化する自然災害への対応などを推進し、安全・安心なまちを目指します。

#### 目標５　豊かな自然を守り育てる、環境に優しいまち

川上から川下まで広大な面積を持つ本市の特性を踏まえ、緑地や街路樹の保全・整備、豊かな自然や農業・農村環境の保全、魅力ある景観の保全と形成などを、市民との協働により守り育てる環境に優しいまちを目指します。

## （２）生活像

### ①都市全体の生活像

将来のまちは、鉄軌道を主体とした公共交通沿線で既成市街地の再構築が進み、都心地区をはじめとした地域生活拠点では、都市の諸機能が集積し、人中心で高質な都市空間が形成され、都市の広がりが抑えられた魅力あるコンパクトなまちへと変化が進んでいます。

各地域が持つ自然環境や歴史・文化などの個性が発揮された拠点形成が進み、これらを結ぶ公共交通ネットワークが使いやすく充実したことで、通勤や通学だけでなく、おでかけをする市民の多くがクルマ以外の移動手段も選択し、日常生活を豊かにするヒト・モノ・コトに出会い、多様なライフスタイルを享受しながら、暮らしやすさを実感しています。

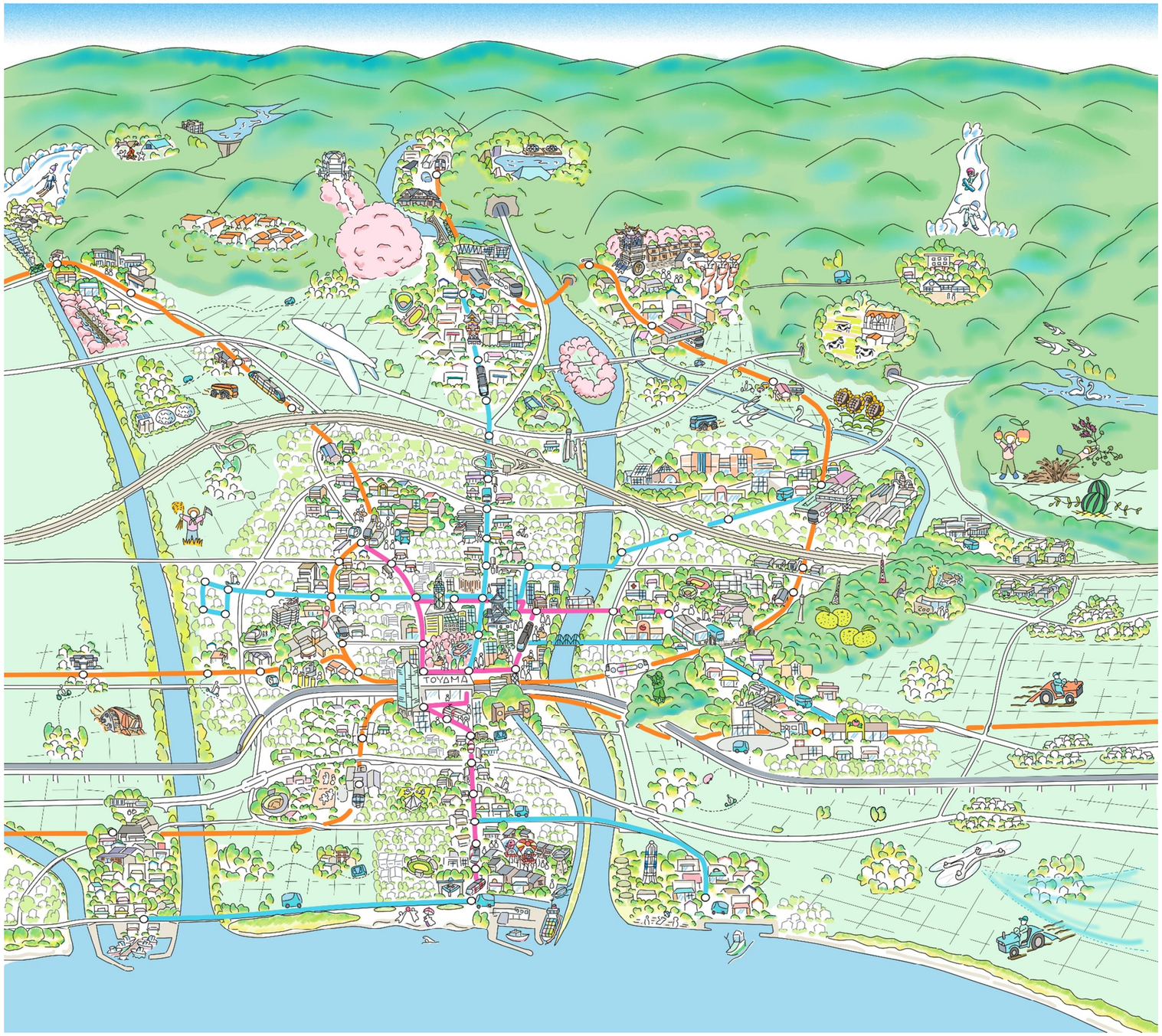
さらに、老朽化する社会インフラの維持・更新と頻発・激甚化する自然災害への備えをまちづくりとの整合を図りながら進めることで、持続可能で災害に強い安全で安心なまちの形成が進むとともに、農林漁業と調和した市街地周辺の農地や自然環境が保全され、豊かな自然が守り育まれています。

**＜ まちの状況 ＞**

- 魅力あるコンパクトなまちへ変化
- 都心や拠点での機能の集積
- 使いやすく充実した公共交通ネットワーク
- 活用が進む既成市街地
- 人中心の高質な都市空間
- 維持・更新が進む社会インフラ
- 地域同士が個性を認め合い連携
- 都市の広がりを抑制
- 守り育まれている豊かな自然
- 農地や自然環境の保全
- 地域の個性が発揮された拠点
- 自然災害への備え

**＜ ライフスタイル ＞**

- 暮らしやすさを実感
- 日常生活を豊かにするヒト モノ コト に出会える
- 地域の資源や文化などの継承
- 多様なライフスタイルを選択
- 持続可能で災害に強く安心
- 市民の多くがクルマ以外の移動手段も選択




（注）このイラストは都市全体の将来イメージであり、施設の配置などは正確でない場合があります。

## ②地域生活拠点の生活像

### ■都心地区・都心コア

都心地区では、市全域とのつながりを感じながら、創造性と賑わいに満ちた活力ある暮らしが広がっています。また、広域的な都市機能と生活に必要な機能が集積し、緑と調和した人中心のまちで、市民は便利で快適な都市の生活を楽しんでいます。

都心コアを中心に、徒歩や公共交通で回遊しやすい移動環境とリノベーションにより魅力を増した建物や公共空間が、沿線の良好な都市景観と調和し、市民や来街者を惹きつけ、居住だけでなく、業務や交流、余暇活動などの多様な活動が生まれることで、民間の活発な投資や市民による新たな挑戦・起業につながっています。

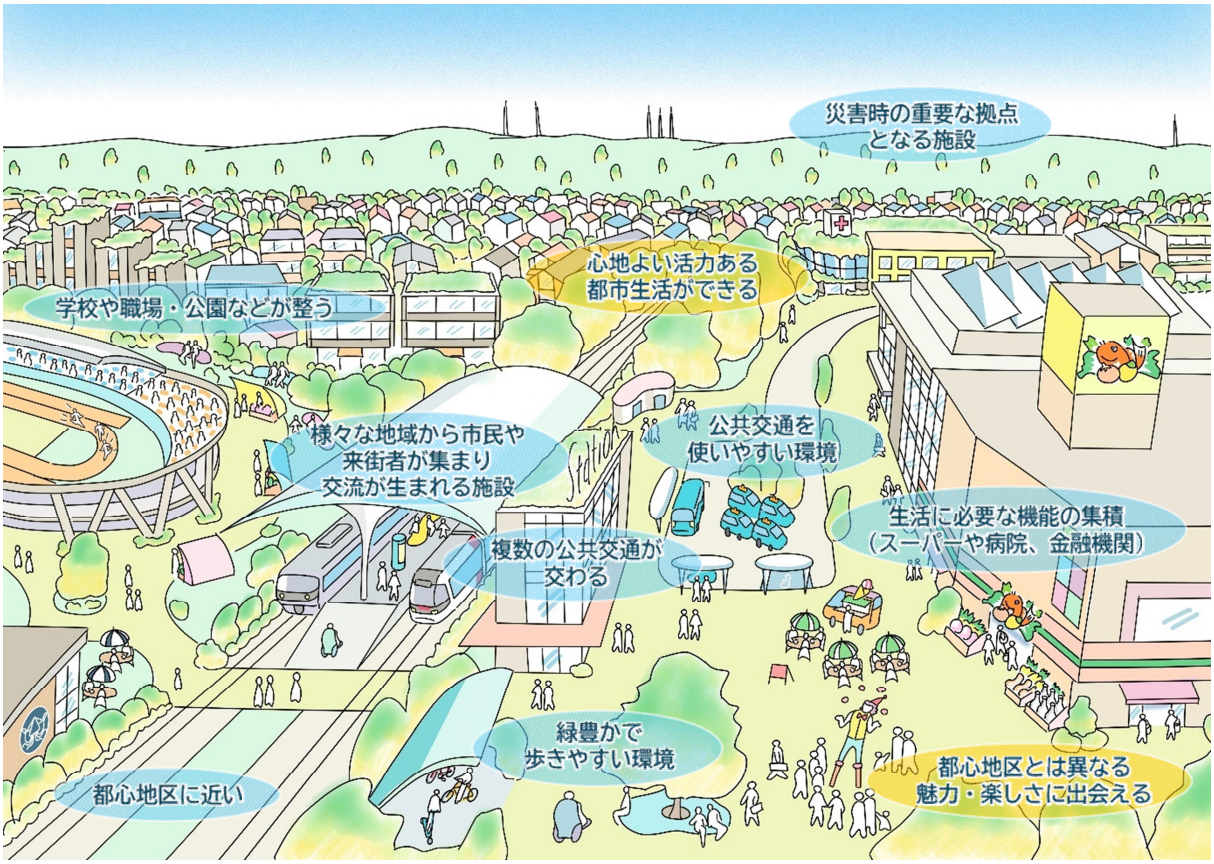
＜ 要 素 ＞　まちの状況　ライフスタイル

（注）このイラストは特定の場所をイメージしたものではありません。

## ■地域生活拠点－副次都市拠点－

副次都市拠点は、複数の公共交通が交わる便利なエリアであり、都心地区にも近く、様々な地域から市民が集まる場所です。生活に欠かせない機能であるスーパーや病院、金融機関はもちろん、学校や職場・公園なども整い、緑豊かで歩きやすい環境が整備されています。

また、市民や来街者の交流が生まれる施設、災害時の重要な拠点となる施設が立地し、起業などの新たなチャレンジをする場としても活用されるなど、都心地区とは異なる魅力・楽しさに出会え、市民にとって心地よい活力ある都市の生活が広がっています。




＜ 要 素 ＞　まちの状況　ライフスタイル

（注）このイラストは特定の場所をイメージしたものではありません。

## ■地域生活拠点－地域拠点－

市内の様々な地域から公共交通でアクセス可能な地域拠点は、富山ならではの自然や文化が凝縮されています。山や海に近く、特徴的な風景の中で、公共交通を利用して訪れる市民や来街者に、観光・レジャー、祭り、地元の特産品などを楽しむ機会を提供しています。

周辺に暮らす市民は、四季の移ろいを感じながら農業・漁業・林業などに従事し、または地域行事に参加することで、地域の文化や生活を育みながら、地域に根差したゆとりある豊かな生活を送っています。

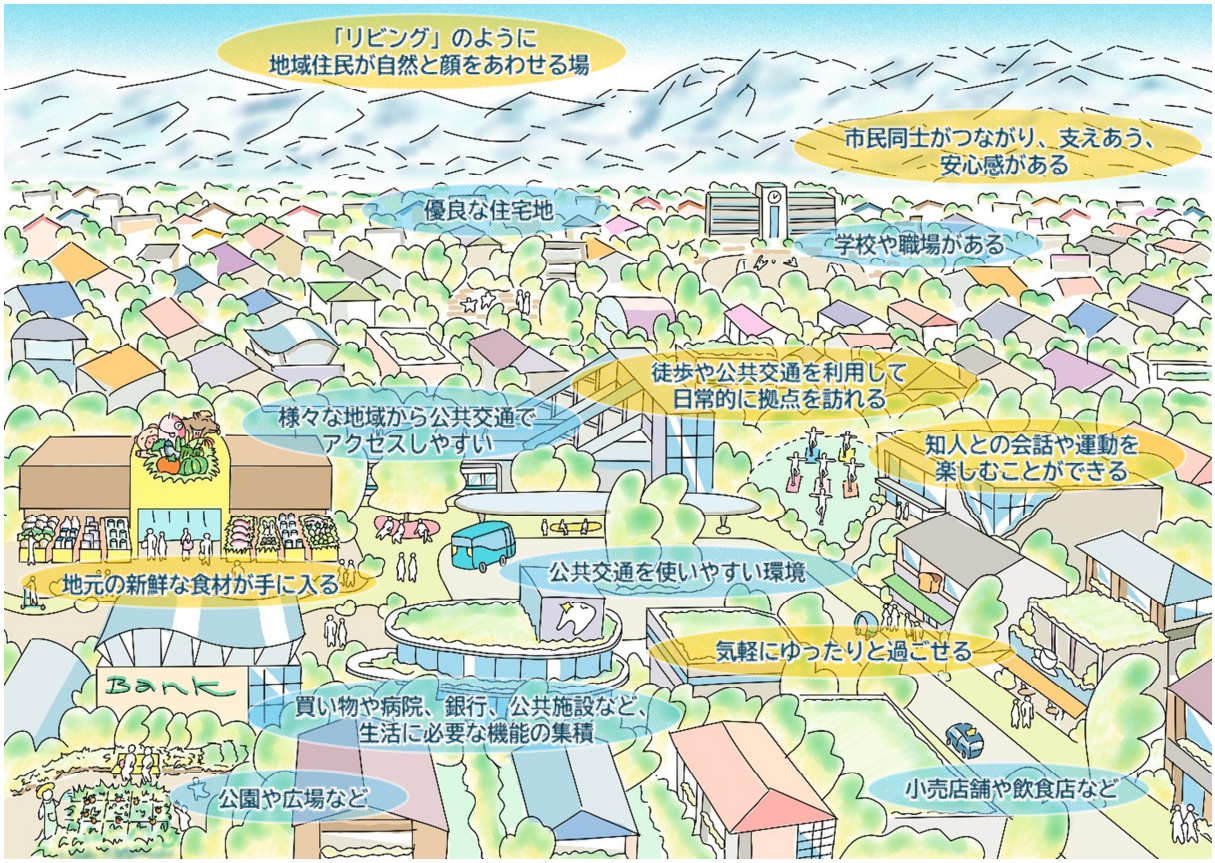
＜ 要 素 ＞　まちの状況　ライフスタイル

（注）このイラストは特定の場所をイメージしたものではありません。

## ■地域生活拠点－生活拠点－

生活拠点は、市内の様々な地域から公共交通でアクセスしやすく、多くの市民にとって便利な場所にあります。そこには、買い物や病院、銀行、公共施設など、暮らしに欠かせない機能が集積しており、学校や職場もあるなど、地域住民が自然と顔をあわせる「リビング」のような役割を果たしています。

周辺に暮らす市民は、徒歩や公共交通を利用して日常的に拠点を訪れ、地元の新鮮な食材を手に入れたり、知人との会話や運動を楽しんだり、飲食店で気軽にゆったりと過ごすなど、拠点での活動を通じて、市民同士がつながり、支えあう、安心感のある生活が営まれています。




＜ 要 素 ＞　まちの状況　ライフスタイル

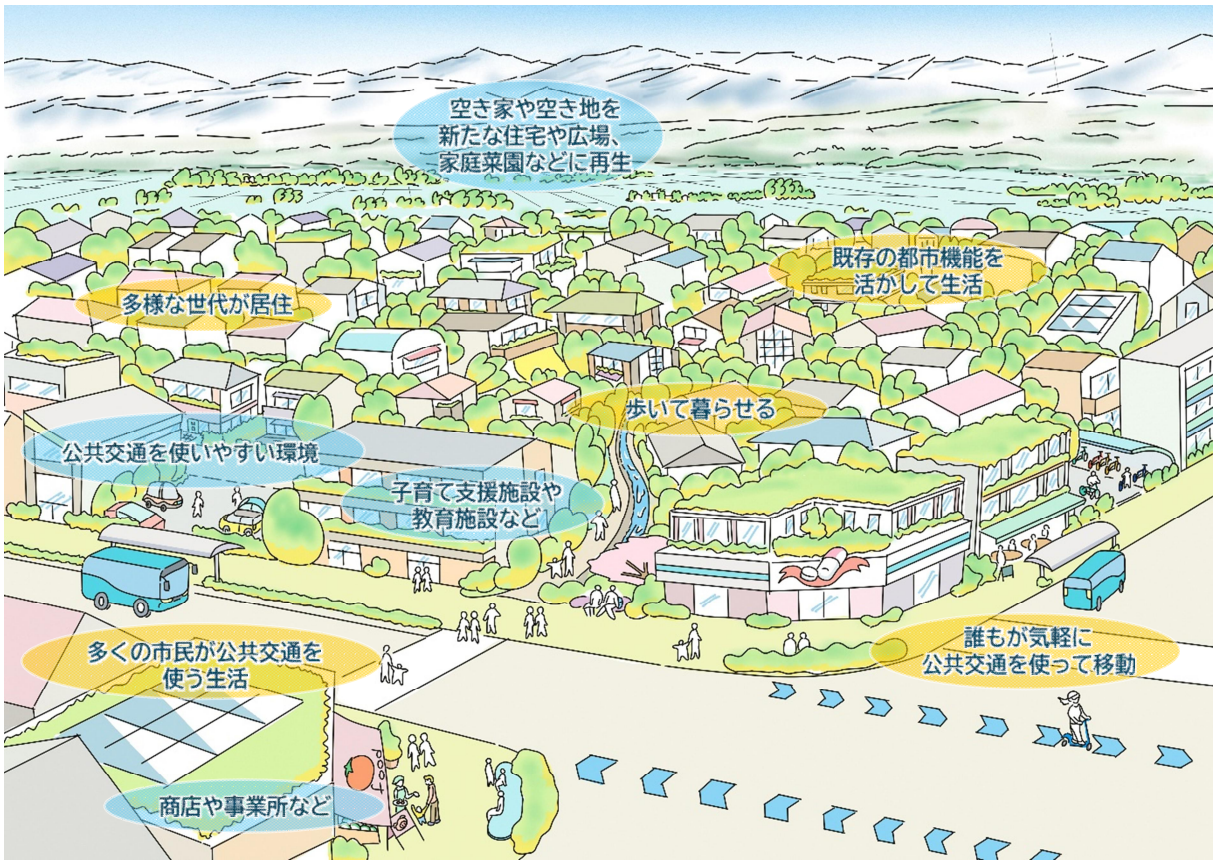
（注）このイラストは特定の場所をイメージしたものではありません。

## ③公共交通の沿線と沿線外の生活像

### ■公共交通の沿線

市民は徒歩や自転車を中心とした移動手段により、最寄りの公共交通へアクセスし、子どもから高齢者まで誰もが気軽に都心地区や周辺の地域生活拠点などへ移動できます。これにより、駅やバス停を起点とした通勤・通学・買い物・余暇などに公共交通を活用するライフスタイルが広がっています。

沿線には多様な世代が暮らしており、子育て支援施設や教育施設、商店、事業所などが立地しています。また、空き家や空き地は、新たな住宅や地域の広場、家庭菜園などに再生され、既存の都市機能を活かした持続可能で快適な生活が営まれています。




＜ 要 素 ＞　まちの状況　ライフスタイル

（注）このイラストは特定の場所をイメージしたものではありません。

## ■公共交通の沿線外

車利用を中心とした生活が営まれていますが、コミュニティバスや地域が主体となって運営する移動手段などにより、主要な都市機能や公共交通へのアクセスが確保されています。また、移動スーパーやＩＣＴの活用により不足する都市機能を補うなど、地域コミュニティを主体とした共助によって車が自由に使えない市民の生活が支えられています。

特に、自然が身近にある田園地域や山あいの集落では、農業・漁業・林業などの第１次産業に従事する市民も多く、これらの生産活動は、農村の景観や文化を保全・継承するだけでなく、水源や動植物の営みなどの自然環境を育み、都市部をはじめとした多くの市民に豊かな食や安らぎを提供します。さらには、水害や土砂崩れを防ぎ、川の流れを安定させるなど都市の安全・安心を支える重要な役割を担っています。

＜要 素＞　まちの状況　ライフスタイル

（注）このイラストは特定の場所をイメージしたものではありません。